科目ナンバリング	U-LAS62 10002 LJ80

授業科目名 <英訳>	森里海連環学II ：森林学 Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans II :Forest Science	担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 教授 徳地 直子 フィールド科学教育研究センター 教授 舘野 隆之輔 フィールド科学教育研究センター 准教授 長谷川 尚史 フィールド科学教育研究センター 准教授 伊勢 武史 フィールド科学教育研究センター 准教授 石原 正恵 フィールド科学教育研究センター 准教授 小林 和也 フィールド科学教育研究センター 講師 坂野上 なお フィールド科学教育研究センター 助教 中西 麻美 フィールド科学教育研究センター 講師 松岡 俊将 フィールド科学教育研究センター 助教 杉山 賢子 フィールド科学教育研究センター 助教 鈴木 華実 農学研究科 教授 立花 敏 生態学研究センター 教授 佐藤 拓哉 フィールド科学教育研究センター 特定助教 張 曼青

群	統合科学科目群	分野(分類)	森里海連環学	使用言語	日本語

旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

森林について、森林をとりまく社会情勢、林業の現状、森林の生態学的把握、森林の生み出す機能、森林をよりよく利用するための方策など、多方面から森林を解析し、総合的に森林に対する理解を深める。

[到達目標]

森林に関する多面的な学習を通じて、科学的知見に基づき森林のあり方を検討することができるようになる。

[授業計画と内容]

我が国は国土面積の2/3を森林が占めており、先進国の中でも際立った存在である。循環型資源である森林資源は、地球規模での環境問題の深刻化を受けて、再びその有効利用が注目され、我が国でも一時は19%まで下落した木材自給率は約半世紀ぶりに40%台を回復した。しかし一方で、依然として管理が放棄された森林は多く残されており、また森林資源の過利用は気象の激化にともなって災害の起点となるおそれもある。本講義では、我が国の自然環境ならびに森林を取り巻く状況を紹介したのち、生態学的な視点から森林の更新維持機構を学習し、物質循環を通じた森林の持続可能性について論じる。さらに、これらの知見をもとに、森林・木材の利用と管理についての検討を加える。

以下の各テーマについてフィードバックを含む全15回で講義を行う（予定）。講義順が前後したり，2回に分けて実施したりすることがある。詳しくは授業中に説明する。

1　日本の森林　石原
2　日本の森林の現状と課題　徳地
3　森林での生物多様性　松岡
4　生物進化と樹木群集　小林
5　森林における生物間相互作用　杉山
6　森林－河川生態系における生物多様性と生態系機能　佐藤

森里海連環学II ：森林学(2)へ続く↓↓↓

森里海連環学II ：森林学(2)

7	森林生態系の炭素循環	伊勢
8	森林生態系の養分循環	舘野
9	森林の植生更新と動物との関わり	鈴木
10	花粉症問題と森林	中西
11	造林政策	立花
12	森林資源の利用	長谷川
13	木材の消費・流通システム	坂野上
14	環境社会学では「森林」をどう考えているのか	張
15	フィードバック	

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

各回でのレポートおよび平常点評価による採点を基準とする。担当教員によって評価基準が異なることに注意すること。評価基準については授業中に説明する。

[教科書]

授業中に指示する
講義に際して使用するテキストをLMSよりダウンロードしておくこと。

[参考書等]

（参考書）

石井弘明、徳地直子、榎木勉、名波哲、廣部宗編 『森林生態学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-47054-3
森林立地学会編 『森のバランス』（東海大学出版会）ISBN:9784486019336
伊勢武史 『学んでみると生態学はおもしろい』（ペレ出版）ISBN:9784860643430

（関連ＵＲＬ）

https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/(京都大学フィールド科学教育研究センターHP)

[授業外学修（予習・復習）等]

フィールドセンターのHPなどを用いて、森林に関する情報を確認しておく。

[その他（オフィスアワー等）]

森林に関する多面的な講義を予定しているので、文系理系に関わらず受講を歓迎します。

[主要授業科目（学部・学科名）]